

藍住町中学生海外派遣事業 報告

藍住中学校 教頭 安友 孝宣

8月17日～26日までの10日間、藍住町内の中学生16名がオーストラリアでの研修に参加させていただきました。研修内容について次のとおり報告いたします。

1. St Philip's Christian College Gosford

シドニーから北約80kmに位置する都市ゴスフォードにあるSt Philip's Christian College Gosfordでは、3日間お世話になりました。

朝8時までに登校し、午前中に語学研修、午後は10年生や11年生（日本での高校生）と一緒に授業を受けるなどしました。専門的で難しい内容もありましたが、子どもたちは授業内容を懸命に理解しようとする姿が見られました。オーストラリアの授業スタイルだけでなく、モーニングティー（学校でのおやつタイム）など日本の学校とは異なる文化にも触れながら現地での学校生活を体験できたことは大変貴重な経験です。

最終日には、フェアウェルパーティーが開かれ、在校中サポートしてくれたバディのメンバーと先生方が参加してくれました。事前の研修で用意した藍住町クイズや、日本の伝統的な遊びを体験してもらいました。けん玉や羽子板、竹とんぼや折り紙などを英語で紹介し、短い時間ではありましたがバディのみんなにとっても喜ばれていました。そして最後の阿波おどりでは会場が一体となって踊りを楽しみ、日本の三大盆踊りのひとつである「AWA Odori」の魅力を確認できました。



2. 校外活動

シドニー国際空港到着後、ハーバー・ブリッジやオペラハウスといったシドニー市内の観光地を巡りました。初日の午前中は素晴らしい晴天に恵まれ、広大なスケールの景色を各々のカメラに収めることができたはずです。オペラハウスでは、コンサートのリハーサルを見学する機会があり、初日からオーストラリアの歴史や芸術文化に触れることができました。また、予定にはなかったセントメアリー大聖堂などの歴史的建造物も案内していただきました。遠足で出かけたワイルドライフ・シドニー動物園では、一時大雨に見舞われましたが、運良くコアラに触れられたことは思い出のひとつになったことと思います。地元の大型ショッピングセンターに行った際は、目当ての商品購入のために自分たちで積極的に店員さんに尋ねるなどして、英語でのコミュニケーションに自信がついてきた様子でした。

3. ホームステイ

この研修中もっとも生きた英語を使った相手は、ホストファミリーだったと思います。ホストファミリーの子どもたちと一緒にバスで登校したり、帰りの時間や待ち合わせ場所を確認したり、日常生活をともに過ごす中でたくさんの会話を交わしていました。残念ながら各家庭にはお伺いできませんでしたが、毎朝の登校時、バディやクラスメイトと話す声の大きさに明らかな変化があり、日ごとに子どもたちの成長を感じることができました。また、今回はホストファミリーと過ごすフリータイムが2日ありました。動物園や遊園地のほかに現地の人しか知らないようなスポットに案内してもらったり、登山に出かけたり、中には教会のミサに参加した生徒もいたようです。カンガルー肉でバーベキューをしたところもあり、それぞれのホストが子どもたちのためによく考えてくださった様子がうかがえました。きっとホストファミリーとの会話もはずんだことでしょう。多文化多民族国家であるオーストラリアのおもてなしを目の当たりにし、研修のまとめに相応しい2日間になったと思います。

この研修では、英語のスキルアップだけでなく、オーストラリアでの生活を通してそのよさや魅力を体感し、異文化理解、異文化コミュニケーション能力の向上へとつなげていくことに大きな意味があります。また、中学2年生という感性豊かな時期に海外での生活を経験できたことは視野を広げるきっかけであり、国際社会で活躍する子どもたちの今後の人生において大きな糧となるはずです。今回の経験を最大限に生かして、これからはグローバルな視点で物事を見つめ、新しい価値観を醸成していってくれることを期待しています。

藍住町の皆さまをはじめ、本事業に関わってくださったすべての皆さまに心よりお礼申し上げます。

